

すでに法身となりて—— 発刊を随喜——

想い起こす。昭和三十二年の四月、京都の大谷大学の図書館で、閲覽室の雑誌・新聞コーナーから、初めて「香草」誌を手にした。

そこで出遇ったのが、西村見暁師の「有縁の知識」(一、六)と題する「歎異抄」第二条についての講話であった。生きた仏法とはこれだ!と思わず眩いたことを今もはっきりと覚えている。

去日、東京の百々海真法兄から、見暁先生の遺稿があることを知らされた。早速一読させてもらって、折り返しその出版に同意要請する旨を伝えた。それが既刊(二〇一三年十一月二十六日刊)の「世界統一的国家の原造者——清沢満之「絶対他力の大道」——」である。

私はこの書によって、先生の身を挙げての快刀乱麻な言説から、聞法が観念的な精神論ではなく、具体的な存在論(身体論)であることを、しかとうなずかさせられた。これは有縁の人びとと共有していきたい願いから、自坊における同朋講座のテキストとして、共に聴聞させていた

だいて九年目の現在である。

そうしたご縁の流れが、今回再度百々海法兄から、「広大会」ならびに「香草」誌に掲載された見暁先生の講話を、まとめて出版したいとの連絡があり、続いてそのコピー原稿も届けられた。

改めて通読させてもらい、どの一篇も貴重な内容であるが、なかでも「有縁の知識」、および「真の自分の願い——意訳四十八願——」は、白眉の示教と申したく、広くご味読をお勧めしたいことである。

こうした見暁先生の遺稿との重ねがさねのご縁に浴することができると、ひとえに篤信力行の士・百々海真法兄の奉仕力によることである。記して深く謝意を表したい。

末筆ながら、すでに法身(真実の言葉)となつて、はたらきたもうている見暁先生のご教導に心から感謝申し上げます。

合掌

二〇二二年八月二十二日 池田勇諦